

令和5年度市川市社会福祉審議会 第1回高齢者福祉専門分科会 会議録

1. 開催日時

令和5年5月24日（水）14時30分～16時00分

2. 開催場所

市役所第1庁舎 5階 第4委員会室

3. 出席者

【委員】

会 長 山下委員

副会長 松尾委員

委 員 福澤委員、森高委員、岩松委員、菊田委員、坪井委員

(欠席者1名)

【市川市】

奥野地域包括支援課長、尾瀬介護保険課長ほか

4. 傍聴者 0名

5. 議事

(1) 正副会長の選任について

(2) 国の示す計画策定の基本指針（案）について

(3) 各種調査の実施概要及び結果について

6. 配付資料

- ・ 参考資料 第9期市川市社会福祉審議会 専門分科会委員名簿
- ・ 資料1 社会保障審議会資料より「基本方針について」（抜粋）
- ・ 資料2-① 計画策定に向けた各種調査の実施概要
- ・ 資料2-② 「市川市高齢者福祉計画・介護保険事業計画」策定に向けた各種調査からみえてきたこと
- ・ 資料2-② 「地域包括ケアシステム構築」の進捗状況の点検について

7. 議事録

(14時30分開会)

発 言 者	発 言 内 容
山下会長	<p>(1) 正副会長の選任について</p> <p>会長に山下委員、副会長に松尾委員が選任された。</p> <p>(2) 国の示す計画策定の基本指針(案)について</p> <p>それでは、議題(2)国の示す計画策定の基本指針(案)について、事務局より説明をお願いします。</p>
地域包括支援課長	<p>(資料1「社会保障審議会資料より「基本方針について」(抜粋)について説明)</p>
山下会長	<p>ただいま事務局より資料1についてご説明がありました。みなさんからこれまでお考えになっていること等ご意見・ご質問がありましたらお願いします。</p>
松尾委員	<p>今回は、内容にボリュームがあり、中身が濃いものとなっています。後ほどアンケート調査の結果など、具体的な話になると思うので、そちらの方で確認できたらと思います。</p>
坪井委員	<p>居宅サービスの充実ということでデイサービスに行かず、自宅で過ごせるような状況を欲している人がすごく多くなってきたと感じるので、そういう対応をいろいろな形で出来たら助かると思います。</p>
山下会長	<p>コロナの影響で外出を控えているのでしょうか。</p>
坪井委員	<p>コロナの影響ではなく、ご本人自身が外出をしたくないということです。ご本人の体の調子が悪い事が多くて、デイサービスを休むということもあります。</p>
菊田委員	<p>総合事業を重点的におっしゃっていたが、介護サービスを使っている方よりも、日常生活の支援を受けたい、日常的に買い物が困難な方が多いと思う。あと、ヤングケアラーと発言があったが、どのように把握していくのか分かれば教えていただきたい。</p>

山下会長	<p>重要な質問でしたのでまとめますと、一つ目、総合事業を重点的にと書いてあるが、日常的な買い物等介護保険サービス以外のところのニーズが高まっている中、それに対応する支援がないということではないのか。その他に理由があるのかということです。二つ目、市川市は、ヤングケアラーの実態をどのように把握しているのでしょうか。</p>
地域包括支援課長	<p>ご指摘ありがとうございます。介護保険にない生活支援のニーズについて、アンケート調査の中にも表れていますが、買い物支援等の外出同行支援のニーズに対して不足しているというケアマネジャーの意向が示されております。</p> <p>また、ケアマネジャーが支援をしている対象者の中でヤングケアラーあるいは、ダブルケアラー、介護を要する方が高齢者だけでなく、複合的な課題を抱えている世帯があると調査から見えてきました。</p>
事務局	<p>補足させていただくとアンケート調査の結果では、ヤングケアラーは割合としては少ない数字になっていますが、実態として見えていないというところも問題となっております。埋もれている声をどのように把握するのも課題であると感じています。</p>
岩松委員	<p>地域包括ケアシステムについて発信されていないので、身近な活動として市民に知られていないと感じます。また、成功事例が発信されていません。共生社会が縦割りの制度により改善されておらず、団体ごとにそれぞれリーダーがおり、何か同じテーマを共有し合う場が必要と考えます。問題解決のために地域包括ケアシステムがありますが、日本では、近所付き合い等家族以外の人と交流する割合が低いので、体制作りについて議論する場が必要です。</p> <p>団体の担い手が必要ですが、団塊世代の方は、自分で趣味を持って収入があり、個々で活動しているので、団塊世代がリーダーになるバックアップ体制など、いい道筋を作らないといけないと思います。また、地域包括ケアシステムについて相談があったとき、事後対応が多いので予防や提案、呼びかけで動けるような機能が必要であると考えます。</p>
山下会長	<p>地域包括ケアシステムが理解されて高齢者の方にもうまく活用してもらおうことについて、次期計画に反映されるような内容になれば良いと思います。</p>

森高委員	<p>今回、日常圏域が変わるということで人口推計等より細かいところを見ていかないといけないということで、より地域の課題を見ながら計画を作れるのは良いことだと思います。各地域の人口や要介護者のデータを見せてもらえるとより考えられます。地域包括支援センターと圏域が重なっているので、地域包括支援センターで把握している地域課題が計画に反映されること、課題を共有するという意味で大事です。</p> <p>事業者側からすると人材確保が非常に大きい課題で、市川は立地から都内や、船橋市などと人材の取り合いになるなど厳しい状況です。地域区分の見直しも検討していただけるといいと思います。</p>
山下会長	<p>人材確保は全国的な課題であり、特に良質な介護人材、引き続き仕事を続ける環境も含めて、介護の担い手について報酬の面、フルタイムなど働き方の傾向を踏まえて、人材の確保について考えていく必要があります。</p>
福澤委員	<p>コロナの影響で、独居の人を中心に認知症が悪化していると感じています。病状が悪化するのは独居の人が多いようです。最近の問題として、息切れを訴える人が増えてきており、検査をしてみると多くはフレイルで、家にいることが増えて筋力が低下してしまっている状況です。こういった情報は、この分科会にとっていい資料になるのではないのでしょうか。あと、患者さんが認知症を発症して高齢者サポートセンターに連絡しますが、最終的にどうなったか分からないので、今後はどうなったのかぜひ教えていただきたい。</p>
山下会長	<p>コロナの影響で、外出の機会が減り、認知症悪化や息切れを訴える人が増えたとのこと。高齢者サポートセンターが、主治医の方と連携して最後まで状況を確認しあっていくことが重要であり、重層的なところで縦割りをなくしていくことが必要です。</p> <p>資料 5 ページ、6 ページが次期の課題、第9期介護保険事業計画 5 ページの1、2、3番が、国が示した一つの見直し例で、この内容に関連することとして、各委員から現状のご意見をいただきました。関係各課に関連する項目と委員の方の意見がどのように関連しているのか、どのように取り組むべきか考察する必要があります。また次期計画に向けて5 ページをさらに充実させていき、実態を見ながら検討していく必要があります。</p> <p>(3) 各種調査の実施概要及び結果について</p>

山下会長	<p>それでは、議題（3）各種調査の実施概要及び結果について、事務局より説明をお願いします。</p>
地域包括支援課長	<p>（資料2-①「計画策定に向けた各種調査の実施概要」、資料2-②「市川市高齢者福祉計画・介護保険事業計画」策定に向けた各種調査からみえてきたこと、2-③「地域包括ケアシステム構築」の進捗状況の点検について）に基づき説明）</p>
山下会長	<p>ご意見・ご質問がありましたらお願いします。</p> <p>先ほど菊田委員がおっしゃったヤングケアラーのご質問の回答ですが、この調査対象が市川市のケアマネジャーになっています。教育委員会とか別のところで聞くと数字が上がってくるかもしれません。パーセントか実数かでも変わってくる。</p> <p>ケアマネジャーがヤングケアラーの実態をどう把握しているかの回答ということによろしいでしょうか。</p>
事務局	<p>そのとおりでございます。あくまで高齢分野のケアマネジャーに聞いているものであります。本市でヤングケアラーの調査については学校教育の分野で対応していると聞いていますので、確認したいと思っています。ヤングケアラーの問題に関してはケアマネジャー自身が自由記載において把握が課題だと書いていただいています。</p>
福澤委員	<p>真ん中のアンケートの項目は、複数回答なのでしょうか。</p>
事務局	<p>それぞれの活動についての参加状況を質問したという意味では複数回答でございます。</p>
福澤委員	<p>数値を見ると思ったより低いですが、全く参加していない人はどのぐらいの割合でしょうか。</p>
事務局	<p>今回の調査については、まだその分析ができていませんが、令和元年度に行った一般高齢者向けの調査で同様の調査をした時には、何も参加されていない高齢者は一割程度ということが分かっています。</p>
松尾副会長	<p>資料2-②に関して、社会福祉協議会の地域ケアシステム、地区社会福祉協議会でいろいろと活動しています。活動参加の状況で数値が思ったより低いと感じました。</p> <p>地区社会福祉協議会では、サロンやイベント、フレイル予防、地域</p>

	<p>とのつながりでいろいろな事を行っておりますが、コロナの影響でここ数年、衰退した面はあります。今年からまた重点的に進めていけたらと思います。地区社会福祉協議会のお互いさま事業でも、ちょっとした買い物、ゴミ出しの事業をやっています。市川市でも支え合いネットがありますが、支え合いネットの登録の状況、傾向はどのようになっているのでしょうか。</p> <p>地区社会福祉協議会のお互いさま事業では、協力員の人手不足が挙げられます。認知症の件については、社会福祉協議会では、後見人制度の事務を行っております。地域で埋もれている方を、どのように地域や支援につなげていくのが課題となっています。</p> <p>今年の4月から後見支援センターとして新たに体制を整えていますので、そういったところに力を入れていかなければいけません。7月から始まる重層的支援体制との関係でも、埋もれている方をどうやって見つけていくのが課題としてあります。</p> <p>家族介護者の状況でダブルケアが48%とありますが、複数の方を介護しているとか目立った傾向があるのでしょうか。</p> <p>さきほどの話に出てきたヤングケアラーの問題については、学校との連携で市ではどのように状況把握を行っているのか教えてください。</p>
事務局	<p>令和4年度支え合いネットの登録状況は、市民の登録が448名、閲覧回数として社会参加は、15,748回/年、生活支援のメニューが3,967回/年で、社会参加を探している方の方が多い状況です。団体の登録数は77団体、その中で実際にメニューを登録している団体が52団体あり、メニュー、カテゴリーの内訳としましては、集いの場が157件、ボランティア募集が9件、お弁当や日用品の宅配の事業者の紹介が15件、家事援助の紹介12件、外出支援の紹介が7件となっています。集いの場の場として、いきいきセンターの登録をお願いしたところ、閲覧数が一気に増えたという印象があります。また各地域ケアの拠点15か所のうち、7か所しか登録いただけていないので、今年度は全部の地区にご協力いただけたらと思います。</p>
事務局	<p>ダブルケアの質問については、ケアマネジャーの方に“市に期待する施策”を回答していただいているので、その中から傾向を紹介します。2人以上の育児や介護をしている方の状況としては、中学生のお子さんがいて、母子家庭で働きながら週末は親の介護をされていて疲弊していたり、高齢者の介護の他に障害児の育児をしているとの実態の報告がありました。また、期待するところとしては、疲弊している方</p>

	<p>に対しては、お金で解決できることも多いので介護費用の助成が有効ではないか、民間で利用できる安価なサービスがあればいいのではないかと自由記載がありました。</p> <p>ヤングケアラーの件について、ケアマネジャーの回答を紹介しますと、20歳未満の方はサービスを知らない可能性があるため、行政の担当者がケアマネジャーと一緒に訪問して介護サービスを勧めたらどうかとの意見がありました。現場のケアマネジャーの意見なので、市に期待することに関しては、なるべく他の担当課に伝えていきたいと思っていますし、これからの重層的な支援体制の中でこういった連携がされていくかは、今後の課題であると感じています。</p>
事務局	<p>成年後見制度が必要だけれども、地域で埋もれている人をどうやって見つけていくかという質問ですが、現行では、訪問の中で見つけて連絡をいただいたり、郵便局や銀行などで、ATMの操作で困っているケースから市にご相談いただいたりしております。今は点と点で繋がっている状況ですが、今年度から中核機関を社会福祉協議会に委託させていただき、一緒に動いているところであります。それと同時に地域連携ネットワーク会議を今年度初めて開催する予定です。こちらの会議には地域で活動している方に参加してもらい、市から情報提供するとともに地域で困っている方の課題をあげてもらい、それぞれの団体同士で繋がっていただくことが目的ですので、地域で埋もれている方をその会議でも拾い上げていけると良いと考えています。</p>
松尾副会長	<p>今おしゃっていただいたことがその通りだと思ひまして、調査ででてきた数字というのは、本当に実態にあっている数字なのかと考えるとその地域との連携、実態が見える方とのつながりがすごく大事になってくると思ひます。</p>
山下会長	<p>他にご意見は、ございますか。多職種との連携に課題を感じることは、資源の問題なのかご自身の実力の問題と感じているのかタイミングの問題なのか、ご本人の問題なのか、いかがでしょうか。</p>
事務局	<p>調査の聞き方について曖昧な項目があり申し訳ございません。</p> <p>この結果と自由記載の医療との連携についての意見は、医療と介護の連携について話し合う会議で報告する予定です。自由記載の中には、“支援者自身がうまくできていない”という捉え方もありましたし、“窓口になるところが分かりにくい”といったこともありました。それぞれのところに伝えていきたいと思ひます。</p>

山下会長	<p>連携に対して課題があると利用者にしわ寄せがきますから、そうした体制の中で取り上げることとして、次に、提供体制の不足感とありますが、ケアマネジャーの言う不足感と、利用者が言う不足感とのズレは行政の実感として、いかがでしょうか。数値として分析しにくいと思いますが。</p>
事務局	<p>今回ご紹介できませんでしたが、在宅での介護に関する調査の中では、ご本人や介護しているご家族の方にサービスについて聞いているものもありますので、次回以降の会議等でお示ししたいと思います。</p>
山下会長	<p>コロナ渦で本市の利用者アンケートで施設入所に対する意向に変化を与えたとは、どんな変化を与えたのでしょうか。</p>
事務局	<p>アンケートの意図としては、報道されていたような、介護施設におけるクラスター発生によって入所者が家族と会えなくなってしまった状況等を想定して質問をしております。アンケート結果を、ケアマネジャーの研修会に持って行き、読み取り方で間違いがないかを聞いてみたいと思います。</p>
山下会長	<p>2番の地域包括ケアシステムの深化、推進に向けた取り組みについてアンケート調査は地域生活とそれに関する活動の結果をあげていますが、地域包括ケアシステムでは介護、介護予防、住まい、生活支援、医療と5つのシステムについての基盤ですが、その辺は今後の会議で取り上げるのでしょうか。それともこのアンケート調査に関連すること自体が次期計画の重要事項だと事務局が考えているのでしょうか。</p>
事務局	<p>地域包括ケアシステムの5つの要素を挙げいただきましたが、先ほどご紹介のA4横資料（※資料2-②）において、最も課題とされる項目に“住まい”と“移動”が含まれています。住まいや移動に関しては、今この会議に参加している福祉の部門だけで取り組みを進めるのは厳しいと考えられます。こうした分野について、高齢者と関わるので高齢者の部門の問題であると整理するのではなくて、市全体としての課題だと広めていくことも私共の役割だと考えています。</p> <p>住まいに関しては、住まいのセーフティネットの計画を策定したところですので、計画の中にもこういった課題を取り上げていきたいという方向性ではございます。計画書の中でどこまでできるかは次の第9期計画の中で、これから取り組んでいきますという方向性になるか</p>

山下会長	<p>と思います。</p> <p>高齢者の住まいは、他の課題もあるわけですが、生活の基盤となるものです。人生百年時代で80代以降の状況を見ると、働いていなかった女性の貧困が進む可能性があり、市川市ではそういった傾向があるのか、持ち家でない方が暮らし続けられるのか、経済的な問題の解決という意味でも介護サービスの基盤でどうやって受け止めていくのか、気になるところです。すぐに計画の中で、予算化したりといった話にならないと思いますが、市川市は、在宅介護シフトは進んでいると聞いており、非常に心強く、そこを基盤として強さを活かしながら、暮らし続けられる地域社会をどう作るのか。岩松委員もおっしゃった予防的な街を作っていく。市川市の取り組みを、市民参加でどう作るかを計画に位置付け直す。そういう視点でこの介護保険事業計画に位置付けるという発想を事務局が持っていく。アンケートを見て委員の皆さんの意見として感じているところです。地域福祉分科会会長の森高委員どうでしょうか。</p>
森高委員	<p>住まいその物のハードの数もありますけど、市川の都市部ほど賃貸住宅も多い中で、高齢期に継続していけるか。当然成年後見の話もありますけど、その手前の見守りや、サービスにつながりを持つことで長く住み続けることが可能になるという部分はある。定期的な安否確認や資源を使いながら今ある住まいをどう確保し続けるのかという視点も回答にはなるのかなと思います。サポーターに関心のある方の回答として2,500件、そのうちの12%、あるいは24%で定期的な安否確認ということは先ほどの登録者数より多いので、こういった回答が来ているところに対して、担い手の確保を継続的にアプローチしていただけると増えていくのかなと思います。</p>
山下会長	<p>その他、ご意見、ご質問ありますでしょうか。</p> <p>なければ、第1回の高齢者福祉専門分科会を終了いたします。</p> <p>最後に事務局より事務連絡をお願いします。</p>
事務局	<p>(事務局より、今後の予定について説明)</p>

(16時00分閉会)

市川市社会福祉審議会高齢者福祉専門分科会
会長 山下 興一郎